



未来へ

50年の軌跡

創立50周年記念誌

長井ロータリークラブ

開式のことば



創立 50 周年記念事業実行委員会

実行委員長 横澤 寿彦

水と緑と花の町、日本一幸せに暮らせるまち・長井で、国際ロータリー第 2800 地区ガバナー細谷伸夫様始め多くのご来賓、国内外から多くのロータリアンをお迎えし、創立 50 周年記念式典を挙げることは、会員一同この上ない喜びであります。お忙しい中ご出席賜りました皆々様に衷心より感謝申し上げます。

この半世紀という長い「とき」は、創立会員である渡部保太郎パストガバナーはじめ先輩ロータリアン諸氏の並々ならぬ「奉仕の理想」の追求によってもたらされたことに、会員一同、敬意と感謝を示すものであります。

そして、この度の記念式典は私共を生み育て頂きましたスポンサークラブ様と優良会員の今までの労苦を労う顕彰の場とすること、記念事業はロータリー五大奉仕と東日本大震災の復興を強く意識し次を行うこととしました。

- ① 国際奉仕事業として、「インドネシア・スラバヤ地方小学校に図書贈呈」
- ② 社会奉仕事業として、「長井市（桜大橋南側最上川堤防）に桜 100 本寄贈」と「被災地にソーラー街灯寄贈（盛岡西北 R C 活動支援）」
- ③ 新世代奉仕事業として、「長井南中学校・長井北中学校に教育用備品寄贈」

と、長井市出身の日本病院会会長 堺常雄氏「記念講演会」開催および記念 DVD の発刊であります。

私共は、これらの記念事業の実施が、国際・地域貢献の一翼を担うこと、市民の皆様にもロータリー活動の更なるご理解と新たなロータリアンを迎える場となること、そして、何よりも職業奉仕実践の場とし、会員個々事業の倫理的水準を高め品位をあらしめることに繋がることを願い、新たな「とき」に向かってまいります。

本日まで会員一同諸準備を進めてまいりましたが、失礼な点、至らない点、多々あろうと存じます。ご容赦のほどよろしく願いたします。それでは、只今より創立 50 周年記念式典を開式いたします。

* 式 辞 *



長井ロータリークラブ

会長 横澤 茂

本日ここに、山形県知事吉村美栄子様、長井市長内谷重治様、市内各団体の皆様、国際ロータリークラブ第 2800 地区ガバナー細谷伸夫様、ほかパストガバナー、地区役員の皆様、県内外そしてインドネシアの各ロータリークラブの皆様、長井ロータリークラブOBの皆様、そのほか多くの皆様のご臨席を頂きまして、長井ロータリークラブ創立 50 周年の記念式典を挙げることはまことに光栄であり、会員一同心から厚く御礼申し上げます。

今日の日を迎えられましたことは、地域の皆様の暖かいご支援と、各所ロータリークラブ、ロータリアンの皆様の力強い支えがあったればこそであり、加えて、これまで半世紀にわたり長井ロータリークラブ（RC）を支え、そして共に活動してまいりました発足以来在籍された諸先輩および現会員の皆様様の努力と活躍の賜物であり、ここに深甚なる敬意と感謝の意を捧げる次第であります。

振り返ってみますと、わが長井RCは山形RCと米沢RCをスポンサークラブに、山形RC長谷川吉三郎様を特別代表として 19 名のチャーターメンバーにより、1962 年 6 月 25 日創立され、同じ年の 10 月 19 日に国際RCより承認を受けました。爾来、五十年の歳月を重ねる中、職業奉仕に、社会奉仕に、国際奉仕に新世代奉仕・クラブ奉仕に取り組んでまいりました。

この歴史の中で特記すべきことの一つとして、1995-96 年度の渡部保太郎ガバナーの輩出があげられます。また当クラブがスポンサークラブとなり 1966 年白鷹RC・1973 年小国RC・1992 年長井中央RCの 3 クラブの設立に寄与しております。以来各クラブと、地域の発展のために手に手をとって活動してまいりました。

今後のロータリアンに課せられた近々の課題としましては、昨年 3 月 11 日に起こりました東日本大震災の復興への永い道のりを思いますと、全ての英知を結集した永続的な支援活動が必要であると思えます。さらに地域の活動に限らず、広く世界に目を向けますと、活動の一例として、世界のロータリアンが手を結びあと 1 歩のポリオ撲滅、米山奨学生支援、交換留学生、等々これからもロータリーの力を注がなければならないと思えます。

わが、長井RCも輝かしい 100 年を目指し、更なる 50 年のあゆみの第一歩を、今日この時からメンバー一丸となって踏み出していく所存であります。

最後になりますが、この 50 年の永きにわたり、長井RCにお寄せいただきまして、多くのロータリアンの皆様の暖かい友情と、地域の皆様の力強いご支援に重ねて感謝申し上げますとともに、ご列席の皆様と、各RCの益々のご隆盛を祈念し、式辞といたします。本日はまことにありがとうございました。

インドネシア・スラバヤ地方小学校に「図書」贈呈

(2008～09 より図書費として年 1000 ドル 3 年間贈呈)

(趣 旨)

恵まれない小学校・児童に「図書」を贈呈し、人道的国際奉仕に寄与する。

(経緯と事業概要)

- ・当クラブでは、2005～06 よりインドネシアのスラバヤ・カリアシンRC (女性クラブ)・シダルジョRCと提唱し、WCS事業 (RI登録番号WO5011・ドリンクミルクの栄養補給) を実施。
- ・その継続性を強く認識し、2008～09 より年 1000 ドルを 3 年間送付する「図書」贈呈事業を 50 周年記念事業のメイン事業とした。



(事業確認)

- ・2011 年 11 月 3 日に本事業の成果確認及びカリアシンRCとの合同例会開催と 50 周年記念式典への招聘の目的で現地を訪問した。参加会員は、横澤茂会長を団長とし、WCS事業提唱者赤間寛、横澤寿彦、井上晴雄、齋藤裕之、栗田正彦、前田昌信夫妻、渡部堅一、伊藤克也、齋藤圭央、加藤裕子の 12 名。ジュアンダ空港でカリアシンRCの女性ロータリアンの温かい出迎え後、視察先に向かう。



- ① タンデスローア小学校 (スラバヤ市) — 贈呈図書と書棚拡充と関連実施のトイレ水洗設備拡充を確認する。8 畳程の図書室に数十冊の本が並び数人が読書中であった。
 - ② アグレッツ市立図書園 (スラバヤ市) — 贈呈図書の拡充を確認する。6 畳程の一室で学校に行けない児童達だろうか、贈呈本を 2～3 人で読んでいた。お土産の名産「けん球」を器用に操りはじめた児童の笑顔が印象に残る。
 - ③ ミレニアム孤児院 (シダルジョ市) — 2005～06 よりのミルク供給援助事業を確認する。決して良くない環境下での保護状態に、急遽参加者で援助金 (1 人当 100,000 ルピア) を手渡す。
- ・3 箇所の視察で、社会・教育環境の格差実態を垣間見れる中、人道的国際奉仕事業の成果の一端を確認できた。このたびは、砂一粒程度の事業かも知れないが、児童達の識字率・知識向上に役立ち、義務教育の一助となることを願わざるを得ない。

(合同例会)



視察後、マリオットHで初の海外合同例会に臨む。多くのバナーが飾られた例会場で出席者は約 50 名。女性会長の挨拶 (東日本大震災お見舞いと WCS 事業の支援御礼他) で開会。当クラブ会長挨拶、自己紹介、バナー・お土産交換と続き、当 SAA 司会で四つのテスト唱和、視察状況報告と式典招待者発表で閉会する。私語には注意のベルが鳴る厳粛な中、インドネシア語、英語、日本語の通訳を介しての瞬間の 2 時間であった。懇親となり、赤間寛が現地音楽「ブンガワンソロ」を熱唱し大喝采をあげる。彼女達からも「上を向いて歩こう」等が披露され、初の海外での友好を大いに楽しむ。

(趣 旨)

最上川堤防千本桜を更に充実したものにし、水と緑と花の町として誇れる景観を想像するとともに、地球温暖化への環境保全に寄与する。

(事業概要)

2011年4月17日午前10時より、当クラブと促進協議会主催で桜大橋南側・堀切つづみ記念植樹会を実施。長井市、国土交通省、地区住民、会員にて植樹を行う。本年4月17日の午前11時より、長井市長、国土交通省他の来賓出席のもと記念植樹祭を開催する。計100本の桜を長井市に贈呈する。



植樹後 現在



?年後 未来 春



祝賀会

